

肌の赤みと明るさ印象の関係

新発見

肌の“赤み”により、肌の“明るさ印象”が失われる

赤みの有無による肌印象への影響の比較



シミや様々なくすみに赤みがまざり
肌アレしてみえる

様々な要因による
「くすみ」のある肌に、
「赤み」が混ざった状態

赤みがひくと



赤みが目立っていた頬だけではなく
額やあご周りまでも肌印象が明るくなめらかに

左の画像から「赤み」のみを引いた状態

肌全体が明るく、なめらかな肌に見えることがわかります



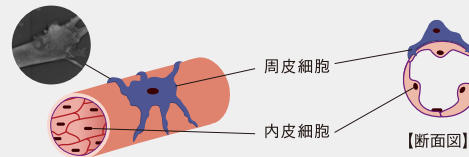
ストレス性血管エラー

新着目

ストレスや睡眠不足、疲労が続くと「**ストレス性血管エラー^{※1}**」が発生
血管収縮がコントロールできなくなり、**居座り赤み^{※2}**が起きていると考えられる

周皮細胞

毛細血管をコントロールする司令塔のような細胞であり、血管との接着がゆるんだり、血管から離れてしまうと、毛細血管が正常に働かなくなる。

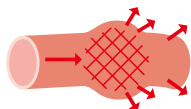


肌の赤みの様々な原因

- アレルギー物質
(花粉、PM2.5など)
- 物理的刺激
- 紫外線
などによる炎症
- 体温の上昇
- 自律神経の乱れ
(緊張など)



赤み発生



ストレス性血管エラー状態

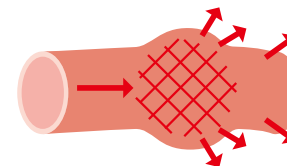
ストレスや
睡眠不足
なし

赤み鎮静



ストレスや
睡眠不足
あり

居座り赤み



※1 ストレスや睡眠不足、疲労が原因で、周皮細胞と毛細血管の接着が弱まる現象のことをポーラが定義 ※2 炎症などの血管拡張要因が鎮まってきたにもかかわらず、赤みが目立ち続けてしまう現象のこと
※イラストは全てイメージです。